



二年生国内農業各分野起業視察研修

地域産業の担い手を目指して

十月二十八日～三十日の期間、二年生が「泊三日の研修旅行に出掛けました。それぞれの学科の学習内容に即した場所で多くの方々と出会い、やさしさに触れながら見て・聞いて・体験して・考えて研修を終えました。」



地域を知る・地域で学ぶ・地域で考える

「新しい知識」

植物科学科二年 横原圭一  
研修中の目標は、「企業で行われている研究内容を少しでも理解」

「今後の進路選択」

環境科学科二年 伊藤廣平  
研修旅行前の事前の準備では、それぞれの研修場所で勉強したいことを挙げ、どんなメンテナン

農業クラブ全国大会へ大舞台で大活躍

十月六日～八日まで、茨城

県にて農業クラブ全国大会が開催されました。本校より、農業鑑定競技や情報処理競技、家畜審査競技等に代表の生徒が出場しました。ここでは、一年生で農業鑑定競技で優秀賞を獲得した森山さんの感想をご紹介します。

動物科学科一年 森山聡美

全国大会に出場するとは思っていませんでした。結果、入賞することができて頑張ったか良かったです。今回の経験から、自分の実力が分ったと共に、努力をすれば結果に繋がると感じました。今後は当たり前のことを積み重ね、来年・再来年の学習では、先生に作ってもら

ました。研修中は、目標に沿って学習しました。瀬戸大橋では、施工方法・安全性を保つ方法等を聞き、とても参考になりました。栗林公園は広い土地でしたが、樹木は丁寧に剪定され整備されていました。今回の研修で庭園等を見て、造園の仕事にも興味を沸きました。今後の進路決定の参考になりました。

食料科学科二年 落合彩香

研修を終えて、本当にたくさんの方を勉強できました。色々な企業さんにお世話になり感謝の気持ちで一杯です。どの企業さんも大切なことを胸に持って働いておられたので、私も働くようになったら大切なことをずつと胸に持ち、相手のことを考えて働くような人になりたいと思いました。貴重で大切な体験ができたことは、私の中で大きなたからものとなり、今後の学校生活の中で活かせるようなことがたくさん学べ、良かったです。

「学校でも活かしたい」

動物科学科二年 片奇真里奈  
私は、「疑問に思ったことは深く追求して、知識の向上を目指す

す」ことを目標に研修に出掛けました。今までは、他県のことばかり知る機会がありませんでしたが、今回様々な所を訪れて、動物管理者としての心構え等多くのことを学習できました。訪れたどの場所も消費者（利用者）のことを考えていて、看板を見やすく工夫して、命の大切さを伝えてありました。農林で活かせるところは積極的に活かしたいと思います。

ふなせとの農業を学ぶ

一年生視察研修  
十月二十九日、一年生が各学科の科目に関連した島根県内の産業を視察する研修に出掛けました。

「働く上で必要なこと」

植物科学科一年 大和咲子  
今岡愛里菜  
松江フオーゲルパークでは、入場してすぐの天井に大きな花が

つるされており、とても感動しました。草花の授業で花の種類や育て方等を習っていたので、見学時にとっても役立ちました。三菱農機は、工場内がとても広く、従業員の人はテキパキと仕事をしておられました。仕事する上では、「集中力」や「技術力」が必要だと感じました。

「もっと知りたい」

環境科学科一年 森山大地  
出雲文化伝承館の出雲流庭園は、水を使わない、短冊石を必ず使う等決まりがあり、とても興味を持ちました。原鹿の旧豪農屋敷には、日本で最大の短冊石がありとても驚きました。

「信頼関係」

動物科学科一年 依 千裕  
授業で犬について勉強しましたが、「盲導犬の訓練方法は知らなかった」と、新しく知ることが出来て勉強になりました。訓練は、厳しさもあるけれど、楽しいことや褒めたりして犬の訓練に対する意識を高めておられました。訓練士が褒めること、これは盲導犬修は、地域でどのような特産品が作られているのか知るきっかけとなりました。また、発酵食品にも興味を持つたので、今後いろいろと調べて自分の知識を増やしたいと思います。

「心で感じて好きになる」

学校長 桑原 克夫

植物科学科の波田地先生が、校長室を花で飾ってくださいました。植物科学科の生徒諸君が精魂込めて育ててくれた花です。シクラメン、ベゴニア、センバフローレンスの八重咲き？、ポインセチア、ガーベラ、ゼラニウムと寄せ植えの鉢です。その内のひとつを玄関に飾ることにしました。いつもは、フラワーデザインを教えていたただいてる佐野先生に生徒の作品を飾っていただいている場所を少しお借りしました。

その中で個人的に好きな花はシクラメンです。別名を「かがりびばな」と言います。確か牧野富太郎先生が命名されたように記憶しています。牧野先生は独学で勉強された方で日本で最も有名な植物の分類学者の一人であると思っています。私も若いころ牧野先生が書かれた植物図鑑を手にしたことがあります。ここからは私の想像ですが、牧野先生はきっと植物が大好きで、その特徴などきめ細やかな観察しながら植物たちと触れあいながらその植物にとって最もふさわしい名前を考えられたことと思っています。皆さんもすでに実行していることと思いますが、植物や動物たちと接する中から心で感じ好きになつてほしいものと思っています。



